

12 シヤントトラブルにより

長期留置型バスキュラーカテーテルを留置した患者の治療に対する思い

健和会病院血液透析センター 久保田利恵 久保敷彰子 木下嘉代 熊谷悦子

I はじめに

当院で長期留置型バスキュラーカテーテル(以下長期型VC)を使用している患者の多くがシヤントトラブルを原因としている。長期型VCは、穿刺痛・止血困難がなく在宅可能であり高齢透析患者へも有用であると感じるが、実際はどのように受け止めているのかを明らかにし、今後の看護に生かしたいと考えた。

II 長期型VC管理

現在の長期型VC患者数は7名 全体の5%

消毒後、滅菌フィルムで保護

必要に応じて外科との連携

指導:当院作成のパンフレットを使用し、家族・ヘルパーさんへ入浴方法・カテーテル管理について、見学と説明を実施



図1 長期型VC

《現在長期型VC留置患者》

	年齢	透析導入	シヤント 使用期間	認知症	介護度
F	89	04年03月	5年5ヶ月	有	申請未
K	86	05年12月	3年10ヶ月	無	要介護2
Y	80	06年11月	2年3ヵ月	疑い	要介護1
M	86	07年12月	2年	疑い	要介護2
H	91	09年03月	2ヵ月	疑い	要支援2
N	93	09年05月	—	有	要介護4
T	90	09年10月	—	無	要介護2

久保田利恵 健和会病院 血液透析センター

〒395-8522 飯田市鼎中平 1936

III 研究方法

対象者	シヤントトラブルのため長期型VCを留置した患者2名
面接期間	2010年3月から5月
面接場所	当院面談室
面接時間	対象者への負担を考慮し1時間以内とした。
面接内容	半構成的面接法を用いて透析導入時から現在までの思いを語ってもらう。対象者の許可を得て録音し、それに基づいて逐語録を作成した。
分析方法	患者の逐語録から治療の受け止め方について述べている文章を抽出し、分析した。

IV 倫理的配慮

面接前に、研究の目的・意義、研究方法・期間、研究への参加・協力の自由意志と拒否権、プライバシーの保護、個人情報保護の方法、研究に参加・協力することにより期待される利益と起こりうる危険並びに不快な状態とそれが生じた場合の対処方法、研究中・終了後の対応について説明し、同意書に署名していただいた。

V 結果

【症例1】

86歳 男性 原疾患:腎硬化症

透析歴:4年3ヵ月

既往歴:大動脈弁閉鎖不全症、心不全、

陳旧性心筋梗塞

ADL :自立

家族構成:孫と二人暮らし

介護度:要介護 2

2回/日 ヘルパーサービス利用

《長期型VC留置に至った経過》

X-4年 10月:血液透析導入、左内シヤント造設

X-3年 1月:シヤント狭窄にて右内シヤント造設

2月:シヤント閉塞、右グラフト内シヤント

形成術施行

・3年10ヶ月間で閉塞を繰り返し16回の拡張

治療を実施

X-1年10月:長期型VC留置

(表 1)透析導入期

カテゴリー	患者の言葉
病状を納得して透析導入	透析च्छちゅうことも書物を読んで勉強した。先入意識はあったもんで透析について不安はなかったです。
穿刺に対する苦痛	この頃は針を刺すのが嫌だった。苦労はあった。(痛みや上手く入らないことに対して)

(表 2)シャントトラブル

カテゴリー	患者の言葉
自分の血管がだめだと思ひ気持ち	わしと一緒に来るおば様は80いくつになる。5年も何とも無いが、わしは血管がだめで両方とも人工血管にしてもらった。血管が細いでよくないと感じていた。
繰り返すシャントトラブルに対しての諦め	あそこ(シャントPTA)に行くぞっていわれたときは嫌だった。しかしこれは前世の因縁だと思って諦めとった。
シャント治療に対する痛みの限界	ただ痛いやつだけは嫌だった。どいれい痛いもんでねえ、痛さの限界だって何回も言った。シャント(治療)はもうこりごりだったもんでねえ。

(表 3)長期型 VC 留置後

カテゴリー	患者の言葉
シャントトラブルから開放された安心感	(シャント)はもうこりごりだったもんでねえ、こっち(長期 VC)になってやれやれと思った。それくらい安心感があつた。このほうがよっぽど楽だ。
長期型 VC 留置に対する肯定感	心配はまったく無い。ここ(胸)でやるやつが一番合理的だ。ほんとに楽し、ね、気持ちがいいし、大変いい。
前向きに治療を受ける	前向きに治療を受ける

(表 4)長期型 VC 留置後から現在

カテゴリー	患者の言葉
入浴時の苦勞	お風呂にそのままは入れんでそれは不便だなと感じた。 派遣看護師が風呂に入れてくれる。風呂に入るच्छちゅうことは大変出費がある。
長期型 VC 早期留置への希望	もう少し早い方がよかった。 今までの過程の中の半分位でかえかった。最初から、(長期型 VC)とは思っていない。この流れでよかった。

【症例 2】

女性 86歳

原疾患：慢性腎不全

透析歴：2年5ヶ月 シャント使用歴 2年

既往歴：脳梗塞

ADL：車椅子使用

家族構成：息子夫婦と3人暮らし

介護度：要介護2 デイサービス利用

《長期型 VC 留置に至った経過》

X-2年12月：血液透析導入、左グヲト造設

X-1年4月：シャント皮膚潰瘍にて皮弁作成術

8月：シャント感染症にてグヲト移植術

9月：シャント閉塞

右グヲト内シャント形成術

11月：シャント完全閉塞

長期型 VC 留置

(表 5)透析導入期

カテゴリー	患者の言葉
透析に対する否定的な気持ち	今度は透析だつて聞いてとつたもんでそう言われたときに嫌だった。
病に対する後悔	もっと早くに他の衆にちらつと聞いておればな。
家族の説得にて透析を決心	「体を治してやるんだで透析に行くんだよ」って言うもんで。私はもう口をだせなんだ。断つても断れきれんで。連れて来られちゃつた。

(表 6)シャントトラブルから
長期型 VC 留置に至るまで

カテゴリー	患者の言葉
透析を継続 するためには 仕方がない	(胸に管を入れることで困ったこと や不安はあったか) もうしょうない と思いきんじやった。
痛みに対しての 苦痛は 少なかった	痛いことは少なかった。 こうゆうもんだとおもっとる。 もう夢中では。

(表 7)長期型 VC 留置後

カテゴリー	患者の言葉
長期型 VC 留置 に対する 肯定感	そりゃこっち (お) のほうが痛くない。 (シャントと比べると楽ですか?) そうだなあ。チクンていうのがそん なに苦にならん。
一生透析治療を 継続しなければ ならない辛さ	行きたくないちゅうことは毎日 だ。 「雪が降ったって何だって行くん だ」っていわれて。嫌だな。嫌だな。
透析通院への 不安	まだこれから何年か来んならん。動 けんようになってどうやってくる か。体が弱くなったらどうするら? そう思って考えとる。

VI 結語

今回の研究によって2症例の患者の思いが明らかになった。

症例1: 導入時から病状を理解し、受け入れ、透析治療に対しての前向きな姿勢があった。長期型 VC を留置したことは、疼痛による強度の苦痛が緩和され、安心感を得ることができ通院透析にも有効であった。

症例2: 導入時から現在まで透析治療への受け入れができておらず、治療を拒否する思いが強かった。長期型 VC を留置したことに不安はなく、通院透析が可能となったことは有効であった。

VII 参考文献

- 相馬泉 村上淳: 臨床透析 2007
血液浄化用留置カテーテル
東仲宣 内野敬: 臨床透析 2009
血管内留置カテーテルバスキュラーアクセス
野口隆司: 腎と透析
長期留置カテーテル管理の実例 2009
日本サイコネフロジー研究会
20周年記念誌 2009.6
春木繁一: 透析ケアスタッフのための季刊情報誌
「Support」